

2 東条山田錦の健康診断について

ねらいと成果

東条町では品質の良い「山田錦」生産に向けて、1998年度から現在まで8年間、関係機関が連携し、延べ1000戸以上の山田錦生産者を対象に、山田錦の健康診断(酒米の分析、土壌分析、問診)を行っている。農家が個々に自分の山田錦づくりを視覚と数値でとらえ、特A地区にふさわしい酒米づくりを目指し、理想の「山田錦」を栽培できる条件について検討している。

いままでの分析の結果、東条町は

- ①粘土質で肥料持ちの良い土壌である
- ②土壌中のケイ酸、鉄は不足気味である
- ③苦土は非常に多く含まれている
- ④近年、良い酒米の割合が減少傾向で、品質を向上させる手段を考えて行かなくてはならないということが分かった。

内容

酒米については以下の4項目を分析している。

- ①良質粒、未熟粒、整粒以外の判別(品質判別機)
- ②1粒平均重と粒ぞろいの測定(単粒重測定装置)
- ③1粒の大きさの測定(形状分析装置)
- ④タンパク質含有率の測定(近赤外分析計)

今までの結果をふまえて、良い酒米の基準を決めている(表)。良い酒米とは①心白の大きい高品質なもの、②1粒の大きさが大きく高い心白割合を示すもの、③1粒の重さが重くばらつきの少ないもの、

④高品質な酒米の目安として、タンパク質含有率が低いものとしている。

診断方法は、各測定項目について、よいものからA・B・Cに判定分けを行った。なお、2004、5年は急激な品質の低下が認められた。この原因として、台風や高温・小雨などの異常気象が考えられている。

土壌については以下の10項目を分析した。

- ①リン酸、②カリ、③石灰、④苦土、⑤鉄、⑥ケイ酸(土壌作物総合分析計)
 - ⑦土壌酸度(pHメーター)
 - ⑧CEC、⑨腐食、⑩全窒素(インフラライザー)
- 鉄とケイ酸については2003年より分析している。土壌の分析結果については、水田の目標値と比較している(図)。

各農家に対しては、酒米と土壌の分析結果と問診票による聞き取りから、農家ごとに通知書を作成して、個別に指導している。

今後の方針

集積された酒米と土壌の分析データから、高品質な山田錦生産の栽培条件を検討していく。また、施肥量の適正化とケイ酸、鉄を含む土壌改良資材の施用を推進し、東条町のほ場に不足している成分を補強して、品質のよい山田錦づくりを進める予定である。

田中 尚智(加西農業改良普及センター)
(問い合わせ先 電話:0790-47-1448)

表 良い酒米の基準

- ①良質粒60%以上かつ整粒以外10%未満
- ②1粒の長さ5.40mm以上かつ幅3.10mm以上かつ厚さ2.20mm以上かつ心白割合20%以上
- ③1粒平均重が27.1mg以上かつ分散が2.0未満
- ④タンパク質含量7.0%未満

